

平沢復興大臣記者会見録

(令和2年11月27日(金) 17:15～17:21

於)三菱総合研究所4階大会議室A)

1. 発言要旨

今日はブロック会議の出席を受けまして、オンラインによる生活
再建支援拠点ブロック会議、東日本ブロックに出席させていただきました。
出席された皆さんから、各拠点の現状の取り組みや課題、国や福島県への御要望などについて御報告をいただいた後、
時間は短かったですけれども、意見交換を行ったところでございます。

皆さん方の意見の中で出たのは、避難者の全容がなかなかつかみに
くいといったようなことや、行政との連携体制がないといった
こと、それから避難者が高齢化してきているというようなこと、
避難者がつかめない中で避難者に対して、皆さん方、自分たちが
何をどこまでできるのかといったことがはっきりしないと、そこ
ら辺が非常に大きな問題だというようなことが出ました。

それから強く出たのは、こういった活動についてはこれからも継
続してほしい、途中でやめるなどをしないで続けてほしいと。そ
れだけのニーズがあるということでした。

私自身の感じから言いますと、皆さん方、県や市町村などの自治
体との協力というのは全くと言っていいほどできていない。例え
ば私の地元で言えば、どこもそうだと思いますけれども、町会と
か自治会とか、あるいは民生委員とか児童委員とか、地域に根差
して、地域で毎日動いている方がおられるわけですが、そう
いった方々との連携も、どうも聞いている限りでは全くないよ
うです。そういう中でやるのは、活動に大きな無駄ができてくる
んじゃないかなと。ですからもし活動を続けるなら、もっとその
辺をしっかりと、はっきり位置づけ、ここら辺をさせたほうがいい
んじゃないかなというのが私の感想です。

これは一番最後に皆さん方に言わせていただいたんですけれど
も、活動は高く評価するけれども、活動のあり方についてはもう
一度考えていく必要があるんじゃないかなということを申し上げ
させていただきましたところでございます。

私からは以上です。

2. 質疑応答

(問) 1点だけなんですけれども、大臣として、今度震災10年になり
ますけれども、その後もこういった県外避難者に関しては支援を
続けていかなければいけない。当然それには財源というのにも必要

になると思うんですけれども、その辺りのお考えはいかがでしょうか。

(答) 今後の活動については、きょうはいろいろお世話している方々からお話を伺ったんですけれども、私はお世話している方々だけじゃなくて、直接お世話を受けている方からお話を伺って、その方々がぜひともこうした活動を続けてほしいということならば、これは続けたほうがいいと思いますけれども。例えばきょうはお世話している方々で、きょうの方々の御活動は評価しますけれども、それで別に減らすつもりはありませんけれども、きょうの方々だけの御発言でぜひ続けてほしいというお話がありましたけれども、やっぱり直接それを受けている方で、この方々にできるだけ早くお会いして、できるだけ多くの方から率直な御意見をお聞きして、その上で今後の活動のあり方は決めたほうがいいんじゃないかなと思います。

(問) 先ほど大臣からもありましたとおり、なかなか避難者の方々の全容がつかみにくいのですとか、そういった避難者の方々の情報と支援団体と行政との連携というのもなかなかとれていないというような話でしたが、復興庁としてそこを見直していくとか、その制度をしっかりともう一度組み直していくというような考え方はありますか。

(答) ですから今申し上げたとおりなんですけれども、今やっていることが、もちろんみんな一生懸命努力していることはわかりますけれども、空回りしていないかどうか、あるいはそこに一つの若干やり方を工夫すればもっと効果がある活動ができるんじゃないかといったことも考えられますので、いずれにしてもそこは検討させていただきたいなど。

とりわけ一番の主人公は直接お世話を受けている方なので、そのお世話を受けている方からまだ全然私個人は、この前福島に行ったときに何人かの方からお聞きしましたけれども、まだほとんど聞いていませんので、全国でそういったお世話を受けておられる方、そういった方々に直接お会いして、そして率直な御意見をお聞きして、それから今後のあり方を決めたほうがいいんじゃないかなと私は思っています。

(以 上)